

令和5年度第5回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会 会議概要

- 1 会議名 令和5年度第5回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会
- 2 日時 令和6年2月6日 午前10時00分から午前11時30分まで
- 3 場所 安曇野市役所4階大会議室
- 4 出席者 安曇野市 市長 太田 寛、政策部長 渡辺 守、商工観光スポーツ部長 鳥羽 登
教育部長 矢口 泰
千曲川河川事務所 所長 中根 達人
安曇野建設事務所 所長 小林 宏明
松本大学総合経営学部教授 山根 宏文
信州大学キャリア教育・サポートセンター 専任講師 勝亦 達夫（オンライン参加）
2000年シドニー五輪カヌースラローム日本代表 安藤 太郎
安曇野市商工会 青年部部長 岩垂 巧磨
安曇野市観光協会 企画営業課長 佐藤 亜紀子
合同会社うずまき（龍門測てらす） 横内 健人
案内人倶楽部・安曇野市地域通訳案内士 長島 美樹
株式会社MIGRANT（アウトドア愛好家・民泊経営・一級建築士）小穴 真弓
- 5 事務局 政策経営課長 黒岩 一也、企画担当係長 白鳥 和子、企画担当主査 内川 聡介
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 会議録作成年月日 令和6年2月6日

協議事項等

◎会議次第

- 1 開会
- 2 安曇野市長あいさつ
- 3 検討会議
 - (1) パブリックコメントの結果について（資料1）
 - (2) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想について（資料2・3）
 - (3) その他
- 4 閉会

2 安曇野市長あいさつ

【太田市長】

これまで議論いただいた基本構想について、昨年末から1ヶ月間パブリックコメントを実施した。20を超える個人・団体から多岐にわたるご意見をいただき、それらを踏まえて修正案を作成した。これから整備することで、地域に末長く愛される施設になるよう、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 検討会議

(1) パブリックコメントの結果について（資料1）

【事務局説明】

・パブリックコメントは令和5年12月25日（月）から令和6年1月23日（火）まで30日間実施。20個人・2団体から74項目のご意見をいただいた。9つの区分に整理しており、基本構想に反映できるもの、今後構想を進めていく上で参考にさせていただくもののほか、拠点には直接関係のない明科地域の過疎対策等に関するものなどいただいている。それぞれの区分で挙げられた意見は以下の通り。

① 【拠点の機能について：10項目】

施設の設備、デザイン等に関する要望。設備の要望としては、池を井戸水にしてほしい、テレワークに対応してほしい、冬季に対応できるスポーツ施設にしてほしい、観光情報を伝える掲示板、学習旅行に耐えうる設備。デザインの要望は景色を楽しめるよう2階建て以上、堤防から直接接続が可能なウッドデッキ等。その他は、宿泊機能、駐車場の確保、リバースポーツ推進にあたっての安全性の確保に対する懸念等が寄せられた。

基本構想には、新たに教育旅行や企業研修の受入という文言を追加。デザインの要望は今後の基本設計の参考にさせていただく。

② 【構想の進め方：14項目】

拠点ができた後にこう進めてほしい、こんなことに力を入れてほしい等のご要望。主な意見は、学校や子どもたちとの連携、構想における3つのゾーンをどのようにつないでにぎわいを生むのか、また駅前にもどうにぎわいを生むのか、住民からの理解を得る取り組み、河川利用に関わる地元の苦情や地元説明の対応の疑問が寄せられている。

本構想は整備方針を定めるものであるため、ここでいただいたご意見は構想には反映しないが、ソフト事業の充実等については次の段階で参考にさせていただく。

③ 【ゾーニングについて：3項目】

ゾーニングについては、明科地域のアウトドアのポイントとなる場所（長峰山、廃線敷）を中心に、取り組みや活用方針をまとめている。これに対し、自然満喫ゾーンと歴史散策ゾーンも相互の特性を持ち合わせていることを配慮してもらいたい、構想に記載されていない地域資源があるといったご意見をいただいた。

地域資源の案としていただいた自然体験交流センター「せせらぎ」、岩洲公園、ケヤキの森を活用できる資源として構想に反映した。

④ 【明科駅・駅前の活用：7項目】

駅前の空き地の活用、拠点とそれまつわる商売により明科駅周辺のにぎわいに繋げてほしい、空き家活用の取り組みとの連携等のご意見をいただいた。

基本構想に反映はしていないが、今後整備する拠点が駅前・にぎわいゾーンの誘客につながるものになるように、拠点を盛り上げていきたい。

⑤ 【里山（トイレ・駐車場）：5項目】

特に廃線敷のトイレ、駐車場の整備に関する要望が多かったが、構想21ページの各ゾーンの取り組み方針の中に掲げているため、そちらを参照していただきたい。冬の管理や、トイレの水洗化にあたっての課題等、クリアすべき課題が多いため、個々の状況に応じて検討を重ねていく。

⑥ 【里山（その他）：8 項目】

サイクリングを加えたらどうか、自然環境の魅力・保全の取組も構想に盛り込んだ方がいいのではないかと、長峰山・廃線敷への誘客に関する施策を盛り込んでほしい等のご意見をいただきました。

明科の里山は水辺と合わせてアウトドア振興に向けて活用すべき資源だと考えている。アウトドア拠点と連携できる部分もあるため、自然環境の魅力・保全の取り組みは基本構想に盛り込み、今後ソフト施策の充実にあたっての参考にさせていただく。

⑦ 【歴史・文化の活用：5 項目】

構想で触れていない歴史・文化資源があるため、これにも目を向けてもっと活用して PR してほしいというご意見をいただきました。

明科の歴史文化の掘り起こしや地図に書き起こす等活动されている団体もいるため、基本構想に意見を反映し、取り組み方針のひとつとしている。

⑧ 【構想全体へのご意見：12 項目】

場所の選定や構想に盛り込んでほしいこと等のほかに、状況分析・現状理解を補足した方がいいのではないかと、リバーススポーツ関係者以外の利益を書き込んだらどうか、各計画との連携の記載等のご意見をいただきました。

現状分析は基本構想に追加しており、その他は参考とさせていただく。

⑨ 【その他のご意見：10 項目】アウトドア拠点以外の施設整備や構想とは直接関係ない明科地域の生活環境の整備等が挙げられており、こちらは関係部署に共有させていただく。

質疑なし

(2) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想について（資料 2・3）

【事務局】

- ・パブリックコメントを受けて修正した箇所を説明。
- ・構想 1 頁：現状分析の追加の要望に対し、アウトドア拠点の構想が立ち上がったきっかけは明科地域が過疎地域に認定されたことにあるため、過疎地域の計画にある分析を書き加えている。
- ・構想 1 頁：過疎計画から今後の目標数値を示した方がいいというご意見を受け、過疎計画で設定した数値目標を引用して追加。
- ・構想 7 頁：明科の環境保護の取り組みについても追加した方がいいというご意見に対し、「②北アルプスの眺望と長峰山」に、長峰山が環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定され、行政・活動団体・住民などの整備活動で環境が保たれていることを書き加えている。
- ・構想 19 頁：学ぶ取り組みだけでなく、魅力の掘り起こしに取り組んでほしいという意見に対し、魅力の掘り起こしを追加。
- ・構想 21 頁：各ゾーンの活用できる資源、取り組み方針に対していただいたご意見の中から反映。「にぎわい合流ゾーン」の「活用できる資源」に自然体験交流センターせせらぎを追記。「取組方針」に教育旅行や企業研修の受入を追記。「歴史・文化散策ゾーン」の「活用できる資源」に岩洲公園、けやきの森自然園を追記。「自然満喫ゾーン」の「取組方針」に里山体験、森林体験等の提供を追記。

・構想 25 頁：センターハウスの機能のカフェについて、地場産品を扱う場所が欲しいという意見があるが、明科地域にすでにそういった拠点があるため、アウトドア拠点についてはカフェで地場産品を活用し、その魅力を発信することを追記

【安藤委員】

「拠点をこうしてほしい」ではなく「拠点でこういうことをやっていきたい」という意見はあったか。

【事務局】

そういったご意見はなく「こういう活動をしているから配慮してほしい」という意見があった。特に里山の関係で歴史文化の掘り起こしや里山整備を行っているから構想に盛り込んで誘客の施策につなげてほしいという意見。構想はあくまでも拠点整備の方針を示すものなので、ご意見は参考にしますが、今後、拠点を運営する組織を立ち上げる予定で、みなさんと連携しながら明科全体を盛り上げていく方法のひとつとして取り上げていきたい。

【長島委員】

構想 20 頁に全体ゾーニングの話があるが、これまでも回遊手段の課題が挙げられていた。現状でどんな方向性で考えているか。

【事務局】

市全体として公共交通の課題がある。今後デマンド交通「あづみん」を観光においてももう少し利用しやすいようにしたいと考えており、それも活用していけるのではないかと考えている。サイクリングやマウンテンバイク、キックボード等の移動方法をアウトドア体験として導入することで繋がられないかと考えている。

【横内委員】

パブリックコメント全般に感じているのが、アウトドアアクティビティにあまりにも特化する印象を持った方が、その部分だけしか構想に反映されていないと感じているのだと思う。基本構想のコンセプトは包括して、この地域の自然を生かしてそこに人が集まるものになっていて、このコンセプトをしっかりと伝えし、それに基づき民間事業者が集まってくる仕掛け、流れが必要だと思う。拠点を直接使う競技をされる方、アクティビティを利用される方以上の一般人がふらっと訪れても楽しめる、来てよかったと思えるよう訴求できる発信も必要だと思う。

【事務局】

おっしゃる通りで、地元の皆さんにも集まりやすい場所だと思ってもらえるよう、民間の皆さんと協力しながらイベント等を通じて、今後できる拠点がこんないいものになるのだと伝えていける場を作っていきたい。ぜひまちなかで検討されているイベントとも連携させていただきたい。

【安藤委員】

今の意見に紐付き、構想 23 頁に空き家の利用支援が入っているが、この先アクティビティで人が入ってくると人が増えるが、空き家を活用したいという事業者に対して何か計画はあるか。

【商工観光スポーツ部鳥羽部長】

既に空き家の補助金などもあるので、それらを活用していただきたい。移住の補助金もあるため、絡めて使ってほしい。

【安藤委員】

自分は地域の方とつながっているから空き家情報もわかるが、初めてくる人たちには空き家や補助金などの情報が少ないと思うから、その辺りを支援できると新しい事業者も入ってくるのではないか。

【渡辺議長】

空き家や起業については様々な支援があるから、市でまとめて発信するなど必要があると思うので検討させていただく。

【太田市長】

今の意見は大事で、安曇野市の人口は令和 4 年 590 人、令和 5 年 400 人超えで社会増になっている。30～40 代の子連れ、クラフトショップ、地域活動をやる方が増えているのはありがたい。今のご意見は移住定住推進課でやっているが、もう少し強化して、移住したい、創業したい方のケアなども取り組んでいきたい。

【小穴委員】

パブリックコメントは興味深く、ためになる。リバースポーツに対して自分とは関係ないと考えられている方が多い印象。どうやったら安曇野に住む人が水遊びや川遊びで楽しめるようになるのか、拠点ができることで考えられたら。子どもが小さいうちからお母さんが子供を連れて水遊び体験、中高生が SUP の体験、地元への割引など、地元の人ウェルカムなリバースポーツの体験に結びつくことができたらと良いなと思う。

【太田市長】

別の例として、長野県各地でワイナリーがあり、ワインバレー構想をやっている。その中で、ワインの文化というのは周辺の人を楽しむ文化がないとワイナリーが育たないと。本構想もそう。カヌーに特化したわけではなく、アウトドア全般で考えているが、近くに施設とコースができることになっているので、今後教育委員会などと議論する必要があるが、小中高は部活動の指導を外部化する話が始まっているので、明科ではカヌーでも、カヌー以外のアウトドアでも、安曇野全体でもいいが、クラブ活動で楽しめるような場を作っていくことで、地元の方がアウトドアに親しみ、そこにある拠点の生かし方になると思う。来週以降に話をする機会があるため、この考えを提案していきたい。

【山根委員】

市長が仰った「地域で子どもたちを育てる」というのは、文科省も推奨している。例えば金沢では子供達が金沢 21 世紀美術館に行き現代アートに触れることになっている。この拠点でも、子どもたちに向けて自然教育に取り組まれたらいいと思う。

また、10 年後の観光を考えると、一つはインバウンドがある。母数は少ないが、経済効果を生む。もう一つは第 2 のふるさととして安曇野は人気。安曇野で普通の暮らしをすること。カヌーもあるが、色々な自然を楽しんだり、安曇野暮らしを楽しんでいただくこと。環境省は 30by30 で 2030 年までに管理できる自然環境を 30%に増やそうとしていて、合わせて自然体験をすることによりかなり力を入れているのでちょうどいいのではないかな。

廃線敷は一人では歩きにくい、嵯峨野鉄道は従業員たちが桜や紅葉を植樹したり、黒川温泉も森も何もなかったが木を植えたりしている。廃線敷も住民で力を合わせて取り組むことで魅力的なものにできるといいなと思う。

【教育部矢口部長】

市長から教育の話があったが、昔、部活動は学校の先生が顧問をやっていたが、今年度から 3 年間、休日の部活動は地域の方々に指導していただくよう進めている。野球部は、安曇野市内の中学校全体で 1 つしかできない規模になっている。学校合同でやるスポーツもある。例えば、明科は部活動で水の競技などができれば、市内全体の部活になるのではないかなと思う。子供達が興味を持ってやってみたいと思える、子どもたちにとって大谷選手のような憧れの存在がいれば盛り上がるのではないかな。昨年 4 月に犀川で中学校の生徒が亡くなられた。中学校では特に水に対してかなりナーバス。計画を進めていくにあたり、大人も子供も安全だということを理解してもらおう何かが必要。

【中根委員】

千曲川では、飯山市でかわまちづくりの取組が進められており、市内の小学 5 年生全員に総合学習でラフティングをやっている。ラフティングだけではなく、安全の話などもして成功している。中野市では、市と地元の河川利用団体が協力して、夏休みに親子向けの安全普及のイベントをしている。長野県内に事例があるので、情報共有をしながら取組を進めてもらえたらと思う。

パブコメの意見があげられているが、具体的な基本設計や管理手法についての意見は貴重に扱ってほしい。

事業の推進主体について、地域の方々がどう思っているかを大事にしながら、情報共有をしながら進めていただきたい。議論を重ねているが、地元の方に浸透していないかとコメントがあったが、広報活動をしながら方向性を共有した上で進めることで効果が高まると思う。

【横内委員】

明科で生まれ育ち、小学校のときに、夏休み前に前川に近寄るなという指導があった。安全第一をあまり強要すると離れていってしまう。こうやったら水の事故を防げるという教育、サバイバル教育、そういう発想から親水化を目指していただいたらいいのではないかな。

【安藤委員】

川は正直危険だと思う。何が危険で何が危険でないかを教育できれば。奥多摩では川を利用する人が増えたことで川の遊び方を伝えるようになって、変わってきた。明科も教育を絡めて川を知る場所になっていければ良いと思う。教育、地元の人たちが使うということが大切。

地域クラブについて、海外では町全体が応援していて、町全体が盛り上がる。そうになっていくといいのではないか。

【岩垂委員】

構想 21 頁について自然満喫ゾーンにアクティビティや巡るという記載があるが、これらができるような整備を進めるという認識で良いか。

【事務局】

今すでに歴史・文化散策ゾーン、自然満喫ゾーンでトレッキング等色々アウトドアが楽しめる。その他にも今後進めていく中で遊びが開発されると思うが、今後整備するアウトドア拠点が入り口となったり、水とそれらの体験と組み合わせたりできたらいいのではないかと考えている。

【佐藤委員】

観光協会という立場では観光の面を出してほしいが、それだけではダメだということもわかっている。交通の話も観光と密接。いろんなことが境界をつくらず、関わっていただけると良い。一部の人だけではなく、多くの人に関わっていけるものになれば良い。現時点では拠点整備として話が進んでいるが、次のステップとして期待したい。

【小林委員】

構想については委員やパブコメの意見を吸い上げて、方向性としては良い。この中で特にハードの整備が盛り込まれているが、今後の話として、つくったものをどうしていくか体制も大切な話である。実際にどういうものを具体的に作って、どう維持して、盛り上げていくのか。色々な人たちが関わっていくことが大切。

【勝亦委員】

基本構想はまとまったが、あくまでも基本構想。これから実施計画で具体的にどうやっていくかになる。その際に、基本構想でこうなっているからとするのではなく、実施計画を進めていく中で立ち返る場所として基本構想を捉えてほしい。今はアウトドア拠点、水辺周辺のアクティビティが先に伝わってしまうところがあるが、人・自然・歴史が巡る水郷の賑わい拠点として掲げているので、この言葉やイメージを伝えていくことが大切。巡るをどう捉えていくかは人によって違うと思う。巡るは英語でもさまざまな意味があり、Surround（あちこちめぐる）＝色々な地域資源がつながっていく、Devolve（巻き込む）＝これまで地域の方が頑張ってきたことが自分のところに集まってくる、Go Around＝自分のまわりに色々なものが張り巡らされている状態。まさに拠点が目指すところだと思う。このコンセプトを地域、地域で活動してきた方に伝えること。

懸念としてはどういう主体で実施していくのか。指定管理やかわまち委員会等の記載があるが、外の人に頼んだから終わりではなく、どうやって自分たちで実現していけるのかの体制づくり、仕組みづくりを同時並行で構築していただきたい。その時に地域を活性化する手段として拠点、カフェ、空き家、教育等があると思う。基本構想は立ち返る場所として考えていただきたい。

【渡辺議長】

構想のコンセプトは市民の皆様に伝える努力をしていきたい。

委員の皆様には前向きなご提案をいただき、感謝申し上げます。

基本構想案については、提案させていただいた内容で取りまとめるということによろしいか。

（委員からの意見なし）基本構想案について同意が得られたため、提案した内容で取りまとめる。構想は方針を示したものになるため、実施にあたってはまだ検討の余地がある。ハードの面では、関係者の意見要望を聞きながら、より具体的で実現可能な設計に落とし込んでいく。運営方法や推進体制等のソフト面も十分検討をさせていただく。引き続き委員の皆様にはご指導ご協力をお願いしたい。

【太田市長】

基本構想の方針は取りまとめられたが、完成版は今後また共有する。

ハード、ソフトの面さまざまな意見をいただいたため、検討を進めていきたい。基本構想の後、今後進める中でも意見を伺いながら、また、パブリックコメントにもあったように地元への広報が足りないと思うため、区長会等とも相談しながら、多くの人に発信していきたい。